



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、教育研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

令和2年度 高知市研究協力校研究発表会（小規模校教育）

令和2年12月2日（水）実施

「学ぶ・つながる・豊かに考える子どもを育む～対話を通して確かな力を付ける児童主体の授業構築～」

高知市立浦戸小学校

公開授業・研究発表

うらどベーシックの実践
（問題提示、問いをもつ、問いの共有、自力解決、学び合い、まとめ、振り返り）
※「高知県授業づくりBasicガイドブックH29年度改訂版」を参考に作成

UDを意識した学習方法
・スタートからゴールまでのプロセス、思考のキーワードをあらかじめ板書で提示
・全学年が同じ教具（ホワイトボード、短冊、タブレットなど）や思考ツールを使用

学習リーダーで育つ
・教員は、児童が見通しをもっているか、考察はねらいにせまれているかを確認し、適切な指導と支援を行う。



浦戸小
マスコット
キャラクター
うらごん



電子黒板にノートを投影

想像を広げて物語を書く

自分の考えをみんなに説明

かけ算の問いを全員で共有

垂線の引き方をお互いに見せあって確認

登場人物の思いをみんなて考察

分数の加法・自分の考えを発表中

つくったダジャレを発表

教師は後ろから見守ります

教師が目の高さ合わせて支援

子どもたちが主体的に授業を進める様子と、それをポイントで支援する先生方の姿が印象的でした。

研究の詳細は所報「研究」694号に掲載

セルフ授業大会（学び方を学ぶ）

子どもたちだけで授業を進める。担任は他のクラスの授業を参観し、児童の様子から日頃の同僚の指導について学ぶ。授業後は児童と教員全員で事後研を行い、学び方を共有し合う。

講演 「どの子の学びも保障する授業のUD化」 高知大学教職大学院 是永かな子 教授



子どもの習熟度に応じて、プリントを数種類用意する等

全ての子どもが分かる・できるための授業づくり

理解が早い子どもたちも満足できる手立て

自力解決が難しい子たちへのフォロー

苦手な子どもが楽しみ、得意な子どもが輝く、学習活動を目指す

2ndステージ支援を通常の学級で！

「友達の真似から始めていいよ」

「ヒントカードを見てみる？」

大事なことは

自力解決＝一人学び≠一人放置

机間指導でできていることを認める、他の子どもとつなぐ

ユニバーサルデザインに基づく授業のポイント

- I 環境の工夫
- II 情報伝達の工夫
- III 活動内容の工夫
- IV 教材・教具の工夫
- V 評価の工夫



※ ねらいを達成するための手立てを2ndステージ支援の視点で具体化

通常の学級における多層指導モデル（MIM）の構造

1stステージ…通常の学級内での効果的な授業（全ての子ども対象）

2ndステージ…通常の学級内での補足的な指導と配慮

（1stステージのみでは伸びが乏しい子ども対象）

3rdステージ…集中的、柔軟な形態による、より特化した指導

（1st、2ndステージでは伸びが乏しい子ども対象）

対象：高知市立小・中・義務教育・特別支援学校 人権教育主任

講義「改めて部落史に学ぶ - 差別の被害者も加害者も生み出さないために -」

講師：和気地域史研究会 外川 正明さん

加害者を生まない教育の責任

部落差別の解消の推進に関する法律
(2016)

部落差別を解消するための教育
や啓発をしよう！

差別する側へ働きかける法律

(教育及び啓発)

第5条 国は、部落差別を解消するため、必要な教育及び啓発を行うものとする。

2 地方公共団体は、国との適切な役割分担を踏まえて、その地域の実情に応じ、部落差別を解消するため、必要な教育及び啓発を行うよう努めるものとする。



差別をなくすのが教育の責任として、明確に位置付けられた

2000年頃以降の教科書の記述の大きな変化

○ 1990年代の記述

幕府や大名は、農民や町人の下にさらに低い身分を置き、他の身分と分断して支配しました。

～中略～

農民や町人に、世の中には自分たちより低いみじめな人々がいるのだからがまんしようと思わせ…

○ 現在

また、百姓や町人とは別に厳しく差別されてきた身分の人々もいました。

～中略～

これらの人々は、こうした差別の中でも、農業や手工業を営み、芸能で人々を楽しませ、また、治安などによって、社会を支えました。

ポイント①

江戸時代に差別された人々は身分制度の最も下に置かれたのではなく、社会の『外』におかれ排除される差別を受けていた

ポイント②

厳しい差別により社会から排除された中であつてもたくましく社会を支えてきた人々に出会い、その生き方に学ぶ学習を構築する

学習を通して考え合いたいこと

部落差別に関わる史実にとどまらず、人々の生き方と出会い、自分の生き方を考えさせたい。

差別が当たり前だった時代でも差別をしなかった人々

周麟

足利義政

苦しい生活をしながらも差別と闘った人々

渋染一揆

水平社運動

室町時代の僧。差別をされていることを悲しみ、だからこそ命を大切にしている庭師の又四郎を「又四郎こそ人間である」と称えた。

水平社運動

○ 知恵を出し合い力を合わせて差別と闘った人々
激しい差別を受け、厳しい生活を強いられていた人々を「かわいそうだ」と同情的に学ぶのではなく、差別の苦しみから逃げず、差別と闘った人々の生き方に学ぶ。

○ 「差別」の対義語は「尊敬」

「人は哀れんだり差別したりするものではなく尊敬するものだ」これは、水平社の根本的な考えである。人を尊敬するとはどういうことかについて考えるような学習をする。

実践報告「みんなあが笑顔になる人権と福祉のまち『介良』をめざして - 介良小学校の取組 -」
林 宏樹 教諭

P 人権教育の課題
(子どもの実態の把握, 学校の課題の洗い出し)

C 取組の検証
(教職員アンケートの活用)

D 人権教育の推進のための計画的な取組
(人権教育アクションシートの活用, 年間の取組スケジュールの作成, 重点的な取組の焦点化)

A 1年間の振り返り
(1年間の成果と課題, 来年度に向けて, 他の部との連携)

【受講者の感想】

- ・ 歴史を正しく伝える大切さ、差別の被害者も加害者も出さない教育の必要性を学んだ。
- ・ 「教えないことは差別に加担すること」を心に留め、まずは同僚の心を動かしたい。

ご意見・ご感想を高知市教育研究所 教職員研修班までお寄せください。